

令和5年第2回北海道議会定例会・一般質問 開催状況

開催年月日 令和5年7月5日  
 質問者 日本共産党 丸山 はるみ 議員  
 答弁者 公営企業管理者

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>一 知事の政治姿勢について                      (一) 道政執行方針と補正予算編成について                      3 ゼロカーボン北海道推進基金について                      (3) 企業局からの拠出金について                      ア 拠出の必要性等について                      (丸山議員)                      企業局は基金の7割にあたる約70億円を拠出するとしていますが、なぜ7割もの金額を企業局の拠出に求めたのか知事に伺います。                      また、知事部局から金額の必要性和事業内容、拠出期間についてどう説明され、どう判断して拠出決定したのか、公営企業管理者に伺います。</p>	<p>(公営企業管理者)                      はじめに、ゼロカーボン北海道推進基金への繰り出しについてでございますが、企業局では、令和2年3月に策定いたしました「北海道企業局経営戦略」におきまして、再生可能エネルギーの推進に積極的に役割を果たすこととしているところであります。                      こうした中、この度の予算編成過程におきまして、電気事業会計において生じた利益であります「再生可能エネルギー等利用推進積立金」のうち約70億円を本道における再生可能エネルギー等の導入等の加速化に向けたゼロカーボン北海道推進基金に繰り出すことを、決定したところであります、引き続き、企業局といたしましてもゼロカーボン北海道の実現に向けた道の施策と連携を深め、その推進に貢献してまいります。</p>
<p>(3) 企業局からの拠出金について                      イ 企業局依存体質からの脱却について                      (丸山議員)                      基金財源の7割を企業局に依存することは、電気事業の設備更新や再エネ拡大の取組にとってもブレーキとなりかねません。企業局からの拠出金に依存するこれまでと同様のあり方を見直す必要はないのでしょうか。知事及び公営企業管理者の見解を伺います。</p>	<p>(公営企業管理者)                      次に、今後の対応についてでございますが、全道9カ所におきまして水力発電を行っております企業局といたしましては、クリーンな電力を安定かつ継続的に供給することによりまして、本道の地球温暖化対策に貢献していくことが重要と認識しております。                      電気事業会計におきましては、毎年度の老朽施設・設備の改修・更新に要する費用や新規電源開発に向けた調査費など、持続的な経営に必要な経費を見込んだ上で、この度、再生可能エネルギー等利用推進積立金の中からゼロカーボン北海道推進基金へ繰り出すこととしたところであります、今後とも、健全かつ安定的な経営に取り組みつつ、ゼロカーボン北海道の推進に貢献できるよう適切に対応してまいります。</p>
<p>(3) 一 再 企業局からの拠出金について                      (丸山議員)                      公営企業管理者は経営に必要な経費を見込んでいると述べましたが、今後知事部局からさらに基金の拠出を求められた場合、どう対応するのか伺います。</p>	<p>(公営企業管理者)                      ゼロカーボン北海道の推進に関し、今後の対応についてでございますが、この度、企業局では、本道における再生可能エネルギー等の導入等の加速化に向け、電気事業会計におきまして必要な経費を除いた後に生じた利益であります「再生可能エネルギー等利用推進積立金」からゼロカーボン北海道推進基金に対し繰り出すことを決定したところであります、今後とも、健全かつ安定的な経営に取り組みつつ、ゼロカーボン北海道の推進に貢献できるよう適切に対応してまいります。</p>